

今年も6月の最後の日曜日の朝を迎えました。この日は弾圧記念日礼拝です。81年前の6月26日の朝、大阪西野田教会（現・西野田鶴見橋教会）の小出先生は、前日に信徒さんの赤ちゃんが亡くなり、痛ましいお葬式をする用意をしていました。そこに突然朝早く、特攻警察が土足で乗り込み、「改正治安維持法違反」として、牧師先生を連れて行ったのです。京都復興教会の前身、京都朱雀教会でも、竹入高先生が、琴夫人と幼い4人の子供と引き離されて、検挙されました。鳥取では、清水潔先生のお父様、清水良太郎先生が検挙されました。清水先生が6歳のお誕生日を迎えたばかりの時の出来事でした。こうして全国で134名の牧師が留置所に入れられました。

なぜ、こんなことが起きたのでしょうか。それは戦争のせいです。戦争が始まると、国は国民を同じ考えにしようとします。「みんな違ってみんないい」とは言わなくなります。敵を教えて、絶対に悪者にします。「敵を愛しなさい」とは言わなくなります。支配者以外の命令は排除されます。当時の神様は天皇陛下でした。ですから「天皇陛下も偉いけど、天地万物を創造された唯一の神様はそれを超えている」と言えば、人殺しや犯罪と同じ、刑罰を受けたのです。

今朝の聖書のメッセージは「再臨」です。イエス様が、再びこの世界に来られて、悲しみも涙も無い、平和の国を完成してくださるといふ、素晴らしいメッセージです。昔、アメリカの奴隷にされていた黒人たちは、辛く苦しい仕事をさせられていました。しかし、いつかイエス様がこんな自分たちを迎えに来てくださると、心から信じて希望の歌を力強く歌いました。それがブラック・ゴスペルという素晴らしい賛美になりました。

再臨のメッセージで、清水良太郎先生も、竹入高先生も、牢屋に入れられました。このメッセージが、今朝、再び高らかに語られるとは、なんと素晴らしいことなのでしょう。この平和を、当たり前にはなりません。イエス様は、私たちを救い、育て、癒してくださるお方です。そして、この地上の命が終わる時には、私たちを温かく「おかえり」と天国の食卓に招いてくださいます。このことを信じて、心に勇氣と希望をいただきましょう。

今朝は子どもの日・花の日礼拝でもあります。子どもたちの届ける花が、このイエス様の愛を伝えるメッセージとなって、働く人たち、病にある人たち、孤独な人たちに届きますように。竹入先生は、最後に息を引き取る時「ああ、天国のようだ」と言われたそうです。どんなに人から幸せに見える人生を送っている人でも、最後が不安や恐れで真っ暗だとすれば、なんと気の毒なことでしょう。どんなに苦しい人生でも、最後に、天国を感じ、迎えられることを体験できる人は、しあわせなのです。